

おいしん防災コミュニティ部会がいく！

(第40回 2021年9月)



スポーツの秋なのに、コロナのせいで運動会が中止のところが多い。やっても感染の危険が大きいということで、騎馬戦が取りやめられたりしていると聞く。おいしん防にとって、運動会の騎馬戦は大切な思い出のひとつ。というか、今のおいしん防の人格の何割かは、小学6年生時の騎馬戦体験から成り立っているといつて過言ではないほど。今回はその特別な思い出を紹介しよう。

今を去ること十年前、おいしん坊の通う小学校の名物は、秋の運動会における騎馬戦だった。1学年4クラスが2クラスずつ赤組と白組に分かれ、ド真剣勝負で激突する。騎馬戦は5・6年生の男子総勢180人が、一斉バトルを繰り広げる壮大なスペクタクルだった。

両軍は90名ずつ。通常は3人で作る馬を、我が校は4人編成で騎手を乗せる。5人1組で18騎できる。騎手の1人が大将を務める。戦いは2部に分かれ、第1部では全36騎が同時に入り乱れる団体戦。大将を討ち取られると負けになる。第2部は、1対1で戦う勝ち抜き戦。負けたら次の馬と交代し、全滅した方が負けとなる。

両方とも勝利すれば大きな得点となるので、出場する選手(というより戦士)も応援団もとてつもなく力が入る……はずなのだが、実はそれほど盛り上がっていなかった。なぜなら、やる前から勝負の行方が確定していたから。

Nというベテランの体育教師がいて、騎馬戦の白組を担当するのが恒例になっていた。この先生の指導が鉄壁で、とりわけ団体戦におけるN先生考案による“戦法”が無敵で、毎年白組が2勝していたのだ。

この“N戦法”をざっくり説明すると、大将を中心に17騎が守りを固め、攻撃してくる相手組の戦力を削り取っていく。騎数にかなりの差が生じたところで、N先生の号令で全騎が一斉に相手に襲いかかるのだ。騎馬戦は相手騎手の鉢巻を取れば勝ちなのだが、N先生のチームは1対1の戦いにも強く、団体戦も勝ち抜き戦も制するのだ。



おいしん防が5年生の時は、N先生の白組だった。先生の厳しいしごきを受け、本番は当たり前のように圧倒的な勝利をおさめた。相手チームは最初から戦意喪失しているように見え、嬉しさも半分だった。

6年生では、赤組になった。騎馬戦の1回目の練習の時(当時は2学期の始めからまるまる1か月かけて運動会の練習をみっちり行った)、集まった子どもたちは「どうせN戦法には勝てないよなー」と、早くもあきらめムードだった。

赤組の担当教師は、国語を教える若いS先生だった。騎馬戦の指導は初めてで、見た目もいかにも頼りなさそうだった。ところがこのひよろひよろの先生が、開口一番こう宣言したのだ。

「N戦法を打ち破るぞ！」

そんなの絶対ムリだよなー、と囁き合うガキどもをよそに、S先生は「この世に不可能はない！やればできる！」と熱くアジリ続けた。そして単純な我々は、しだいにその気になり始めたのである。

我々はどのように無敵の戦法と戦ったか、そして奇跡は起きたのか？
このコーナー始まって以来の次号に続く！

(イラストは3人編成の馬しかなかった。ゴメン……)



TOPICS

☆「災害支援市民NW研究会」で災害ボランティア受け入れを学ぶ！

こと防が加盟する「災害支援市民ネットワークしが」の令和3年度2回目の研究会が、8月26日に大津で開かれ、参加してきた。コロナの状況悪化に伴い講師は来場せず、オンラインでの講演となった。演題は「災害ボランティアセンター運営にNPOはどのように関わられるのか」うおっ、ムズカシ〜……居眠りせずにいられるだろうか？ 不安を抱えながら、会場に向かった。

結果から言うと、最後までお目目パッチリでした。なかなか興味深い内容だったので。大規模災害が発生すると、復旧のためにマンパワーが必要になり、大勢のボランティアの助けを借りることになる。その災害ボランティアの受け入れを、社協（社会福祉協議会）がすることになっている。しかし社協自体の業務もある中で、その役目を果たすのは大変難しい。そこで災害支援に係るNPO（非営利の中間組織）が援助すれば……という話。



さらにコロナ禍においては、県外からの受け入れが制限されるうえ、体調チェックなどの業務も増える。それにはSNSの活用が鍵となる。

我が市の社協からの参加者はなかったが、そのへんの準備はきちんとできていると思いたい。食いしん防が災害ボランティアの受け入れに直接関わることはないが、湖東地区の防災力を高めるためには、避けて通れない課題と感じた。

☆健康福祉政策課との連携が進む

7月に行われた「こと防」全体会で、中村準一さんに「誰ひとり取り残さない防災」の講演をしていただいたが、その縁もあって中村さんの所属する健康福祉政策課との連携話が進んでいる。

今年5月に国の「災害対策基本法」が改正され、来年以降に各地域で「個別避難計画」の作成が義務付けられることになった。湖東をそのモデル地区にしたい、というのが課の目論見らしいのだが、良いことなのでできるだけ乗っていきたくいと食

いしん防も考えている。

その具体的な計画の第1弾として、10月に予定されている北清水町の防災訓練において、「誰ひとり取り残さないための楽しい防災訓練」が企画されることになった。8月には同町の正副自治会長と協議が重ねられ、準備が進んでいる。

こと防としては、他町防災関係者の見学も推進するつもりである。詳しいことは改めてお伝えするが、希望される方はぜひ！



今後の活動予定

- 9月 5日 東近江市総合防災訓練
- 18日 日赤奉仕団湖東支部のハイゼックス炊飯体験
- 10月 17日 北清水町防災訓練
- 28日 「災害支援市民ネットワークしが」研究会
- 期日未定 横溝町「災害対応模擬訓練」
- 11月ごろ こと防各ブロック会議

※ 出前講座の申し込み受け付けます！



↑ これはキバ戦

勝手にQ&Aコーナー

Q：防災コミュニティ部会の記事内容は個人ブログ的になっているので、公のHPにはそぐわない。削除された方がよいと思います。(T・K)

A：おおっ、40回目にして初のホンモノの投書が来た！ T・Kさんありがとう！
言い訳がましい説明は野暮なのでしたくないけど、真摯にお答えさせていただきます。いわゆる「公のHP」は退屈で、ほとんど誰も読まないと考えています。そこで、面白い文章で興味を引いて、真面目な(?)部分も読んでもらおうという作戦です。しかし「面白い文章」は、読む人を傷つけてしまう恐れがあります。筆者自身のことを書くのがもっとも無難、という判断です。本来の目的とは異なる文を読みたくない方は、脳内で削除していただければ。

Q：「40回目にして初のホンモノの投書」ということは、これまでの質問は何だったのですか？ ひょっとして自作自演ですか。

A：おおっと、筆のすべりを見逃さなかったか……。自作自演は人聞きが悪い。一人二役と言ってほしい。これからはホンモノの投書も、増えてくれるかな？

楽しい質問、お待ちしております！



(文責：こじまっちょ)